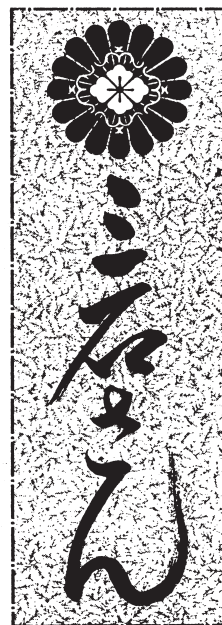




例大祭、参加お稚児さんたち (記事・平成三十年五月)



発行所  
 三石神社社務所  
 神戸市兵庫区  
 和田宮通3丁目2-51  
 TEL (078)671-2531  
 FAX (078)671-7667  
 E-mail info@mitsuishi.or.jp  
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。  
 ○ お伊勢さんのお神札(神宮大麻)と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。  
 ○ お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

### 「風土記」などで見る岡山県牛窓と神功皇后

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社のご祭神・神功皇后のことは、前回の『三石さん』十九号で「風土記」(含む逸文)の成立と「撰津国風土記」逸文の伝承を記載いたしました。今回は岡山県牛窓の神功皇后伝承を述べたい。

牛窓は岡山県南東部の瀬戸内市牛窓町の地で、播磨灘の西端に位置し、瀬戸内海を望む古くからの港町で、現在は「日本のエーゲ海・牛窓」と称して観光誘致に努力している。

牛窓の地名由来は、『備前国風土記』逸文の牛窓の条に、「神功皇后のみ舟、備前の海上を過ぎたまひし時、大きな牛あり、出でてみ舟を覆さんとしき。住吉の明神(住吉大神)、老翁と化りて、其の角を以ちて投げ倒したまひき。故に其の処を名づけて牛転と曰ひき。今、牛窓と云うは訛れるなり」と見えるのを始め、誉田八幡宮(大阪府羽曳野市誉田三丁目鎮座)所蔵の誉田八幡宮資料の一つである『神功皇后縁起』絵巻(二巻の絵巻物。室町時代中期の永享五(一四三三)年作。重要文化財)第一巻には、「皇后備後(『備前国風土記』逸文では備前である)のとまりに付き給時、長十丈ばかりなる牛輿の方より出来て、のらせ給つる御船を損はんとす。其時此老翁(住吉大神)彼牛の二の角を取て海中へなげ入つ。然に此牛海中にして島となりて今にあり。仍此所をば牛まどといひて、文字には牛まろぼしと書たり」と見え、『鹿苑院殿厳島詣記』(室町幕府第三代将軍足利義満の厳島詣に随行した今川貞世(鎌倉時代後期から南北朝・室町時代の武将、歌人、守護大名。室町幕府の九州探題、遠江、駿河半国守護。法名は了俊)が記した紀行文)には、元中六(一三八九)、北朝元

号)年三月、その際には復路は牛窓に寄港している。その『鹿苑院殿嚴島詣記』の六日の条で、牛窓の地名伝承を次のように記している。「御船はいでて牛窓。ま井のすなどにいたりぬ。まことや此うしまどといふ所は。むかしおきながたらしひめの御舟出のとき。けしかるうしの御舟をくつがへさむとしかるを。住吉の御神のとりてなげさせ給しかば。かの牛まろび死けるが島と成て。それよりうしまどといふ也けり。牛まろぶと書て。うしまどとよむとなむ聞侍しなり」と見える。

『本朝神社考』(林羅山(江戸時代初期の朱子学派儒学者。羅山は号。出家後の号、道春の名でも知られる)の儒教神道で著した神社研究書。成立年未詳)下巻の牛窓の条には、「神功皇后の舟備前の海上を過ぐ。時に大牛あり、出で、舟を覆さんと欲す。住吉の明神老翁と化して、其の角を以て投げ倒す。故に其処を名づけて牛転といふ。今牛窓といふは訛なり」と見え、後段に、「其の牛は蓋し麀輪鬼の化する所なり。麀輪八の頭あり。嘗て黒雲に駕り来つて仲哀帝を侵す。帝之を射る、身首二と為つて落死す」と見える記事の出典は『八幡愚童訓』(鎌倉時代後期に成立した石清水八幡宮の靈驗記。作者未詳)上の降伏事の条に、「第六日当て黒雲忽たなびき。麀輪八の頭。持弓。箭。来ければ。高丸武内大臣奏「聞此由」。御門(天皇)自取「御弓」。箭はけて射させ玉へば。麀輪頭を射切て。頭身二成て落にけり。麀輪うせぬるは雖「悦也。」と麀輪の記事が見えるが、『八幡愚童訓』には牛窓の記事は見えない。さらに、「伴信友(江戸時代後期の国学者)は、『諸国風土記逸文稿』(「古本風土記逸文」とも)を写した『風土記逸文』下の備前国風土記牛窓の条に、「神功皇后舟過「備前海上」時、有大牛出欲「覆」舟、住吉明神(住吉大神)化「老翁」以「其角」投倒之、故名「其処」曰「牛転」と記し、さらに「今云「牛

窓」訛也林道春神社考(『本朝神社考』)六此事、亦見于鹿苑院殿嚴島詣記(『鹿苑院殿嚴島詣記』)一、疑風土記文歟(おそらく風土記の文である)」と述べているように、牛窓の伝承はすべて『備前国風土記』逸文からの採択である。ところで、『神功皇后縁起』(絵巻や『鹿苑院殿嚴島詣記』に、大牛が死して島となったと記されているが、その島を地元では牛窓沖にある前島と色付き三島(黒島・黄島・青島)としている。

また、『万葉集』などに、牛窓を詠んだ歌がある。「牛窓の、波の潮騒、島響み、寄さえし君は、逢はずかもあらむ」(『万葉集』巻第十一(二七三二)・物に寄せて思を陳ぶの条)、「はしだてと、名は高砂の、松なれど、みは牛窓に、よするしらなみ」(『曾丹集』(平安時代中期の歌人曾禰好忠の私家集。成立年未詳)百首和歌、つらねうたの条)、「うしまどを、たたく、ゐなの、おどすなり、なみうちあげて、だれかとふらん」(『夫木和歌抄』源俊頼(平安時代後期の官人・歌人)朝臣の水鶏の条)など。

岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓龜山に牛窓神社が鎮座している。社記には、土地の神霊及び氏の祖先の神霊(牛窓には牛窓天神山古墳(八五m)など大きな五つの古墳があり、牛窓首長の墓とされている)を祀っており、牛窓明神と呼ばれていたが、平安時代の長和年間(一〇二一〜一〇一六年)教円大徳が宇佐八幡宮より応神天皇・神功皇后・比売大神などの神霊を勧請して牛窓八幡宮となった。明治に至り、かつて神功皇后が活躍した聖地たる牛窓なるが故に牛窓神社に改称したという。

関西から瀬戸内、九州(主に北部)には神功皇后伝承が多く残っている。その伝承を氏子崇敬者の皆さんに知って頂きたい為、今後も掲載を続けたい。

平成二十九年十一月

七五三詣祈祷齋行

十一月中、七五三詣祈祷を齋行した。近年子供さんの貸衣装予約の關係か、早々と十月に参拝されるご家族もある。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拜殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキヤラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

土・日・祝日に限らず期間中には会館二階に特設写真スタジオを設け記念写真を撮っていただけるよう設備しています。



特設スタジオでの記念写真

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。但し、七五三詣・お宮参りの写真スタジオご希望の方は、必ず予約をお入れください。

介護施設起工地鎮祭齋行

十五日、氏子内の兵庫区笠松通六丁目で十二名参列のもと、重量鉄骨造五階建て延床面積八八三・七〇㎡のサービス付き高齢者向け住宅「KAGAYAKI」の起工地鎮祭が齋行された。

施主の(株)東洋信号通信社は同地にて訪問介護・居宅介護支援事業所として、「けあーらぼ・かがやき」を開設していたが、この度更なる介護・支援を通じて地域に貢献するため、既存建屋を撤去し、サービス付き高齢者向け住宅を新たに建築するものである。

当日は設計・施工の(株)エヌ・エイチ・ケイ日本ハウス神戸の設計担当者草苴始めの儀、施主で事業主である(株)東洋信号通信社の小島社長が穿初の儀、更に施工者を代表して営業本部長が鍍入れの儀を、夫々「エイ・エイ」と力強い掛け声をかけ執

り行った後、前記関係代表者が玉串拝礼して、平成三十年六月末迄の長期工事中の無事故・無災害を祈願した。



竣工したサービス付き高齢者向住宅

平成三十年一月

柔道選手・阿部兄妹

今年も必勝祈願参拝

初詣で賑わう一日、二〇二〇年開催される東京オリンピックの柔道女子五十二キロ級の金メダル候補として注目される阿部詩(夙川学院高校)選手が、テレビ取材関係者共々、今

年も当社に必勝祈願参拝した。阿部選手は、参拝後「大吉」みくじを引いて大変喜ばれ、祈願絵馬に「今年一年負けなし！世界一！！」と書き、御守護を願って絵馬掛けに吊した。

七日には兄の一二三(日本体育大学)選手が同じくテレビ取材関係者共々参拝し、祈願絵馬に「今年も一年負けなし！」と書いて絵馬掛けに吊した。

当社の御祭神・神功皇后の勝運神徳の御守護もあつて、九月にアゼルバイジャン国バクーで開催された世界柔道選手権では、阿部詩選手は日本選手との決勝戦であつたが全て一本勝ちし、絵馬に書いた「世界一！！」の祈願通り初優勝した。一二三選手は決勝戦で優勢勝ちし二連覇を



今年の阿部兄妹の祈願絵馬とTV放送一場面

果たした。  
 尚、詩選手の当社参拝模様は、本年十月十三日の読売TVのアスリートを放送する「あすリート」番組で放送された。

**年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行**

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十一名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、琴の献奏である。この度の演者は、数年前に琵琶の神前奉納をされた中野翔水先生の



ご神前での琴演奏奉納

肝煎りにより、琴の生田流宮城社大師範の浜田静代先生と同師範の近藤眞佐子先生による「昭和松竹梅」と「春の海」を献奏していただいた。

「昭和松竹梅」は、今上陛下ご誕生奉祝演奏会のために作られた祝儀曲で、前半は吉祥の象徴である松竹梅を詠みこみ、後半では祝盃をあげて吉日を寿ぐ喜びを華やかに表現している。「昭和松竹梅」の詞は、「天地の瑞気あつまる大足日、世を挙げて祝ぐ慶福の日よ。若枝の松は千代ことほぎて、和む日陰に緑をかゝげ、生命太しく伸びたる竹は、深くぞ備へて根を張りしづか。年経りし梅は花咲き、諸人の胸にその香を吹き送りけり。このあらたなる寿の、美酒こそはここにあり、生日足日の幸くみて、俱によ重ねむこれの盃。慶祝に同胞は酔ふ、さあれなべてしきにぞ。こころ在るは佳し、こころ在るは佳し」(大野恵造作詞)と萬葉調で格調高い。

「春の海」は、昭和五年の宮中歌会始の勅題「海辺厳」にちなんで作られ、春ののどかな瀬戸内の海の雰囲気表現している曲である。

新春にふさわしい両先生の優雅な

合奏に参列者も盛大な拍手を送った。式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。



鳥居前での記念写真

**平成三十年三月**

**マンション起工地鎮祭齋行**

二十日、兵庫区吉田町三丁目で神戸市市街地整備共同建替事業の「エクスセル御崎公園レガロ」の竣工式が斎行された。

建物は、全室から海が望める鉄筋コンクリート造六階建て、二十五世帯入居するファミリータイプ共同住宅である。

事業主である(株)岡三地所が(株)山内徹郎都市計画研究室をコンサルタン

トとし、大土呂巧建築建設設計事務所所に設計管理を依頼し、岡・今津特別共同企業体に施工を請け負わせ、平成二十九年三月に起工地鎮祭を斎行し、無事に工事も順調に進み本日の竣工を迎えた。尚、御守護のもと、竣工式当日には全室完売であった。神事には事業主をはじめ関係者の参列のもと、厳肅な神事が斎行され、各代表が玉串奉奠して竣工を祝し、入居者の今後の安全と弥栄を祈願した。



夕暮れ時の北側から観たライトアップされた完成マンション

**平成三十年五月**

**事務所移転神棚新設式齋行**

不動産賃貸、分譲などを事業とするJR西日本連結子会社の菱重プロパティーズ(株)近畿支社は、毎年頭、当社に事業安全繁栄祈願参拝を行っているが、此度会社事務所を中

中央区中町通のJ R神戸駅NKビルに移転し、新たに神棚を設け入魂と事務所移転開設修祓式を齎行した。

当日は新設神棚前にて神事を齎行し、全社員参列のもと、大久保社長・橋支社長などが玉串奉奠し、今後の支社繁栄と社員の安全を祈願した。尚、菱重プロパティーズ(株)は本年七月よりJ R西日本プロパティーズ(株)に社名変更した。



新設神棚前での入魂修祓式

例大祭と神幸式齎行

大祭前の五月一日の神戸新聞朝刊の「神戸の春祭り・五月のスケジュール」兵庫区欄に、「二十六日十三時半〜十六時半、地元児童や住民がみこし巡行。二十七日十三時半から神

幸式。猿田彦が先導し、刀やほこを持った小学生、みこし、稚児行列が後に続く」と当社の祭礼記事が掲載された。

大祭日の二十五日金曜日、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十一名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納し厳肅に齎行した。後、会館二階にて三菱重工神戸造船所の青野総務グループ長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。二十六日土曜日午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を齎行し、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに



スタジアム前での記念写真

唄いながら氏子町内を巡幸、午後四時過ぎを以て無事終了した。尚、例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマン五名や、兵庫警察署派遣の四名の警察官らが警備と交通整理にあたった。

二十七日の日曜日、五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく齎行された。午後一時半の殿内発興祭齎行後の二時前より西区井吹台西町の川崎拓海君(二十一歳)扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学校生男女五十八名(男子二十五名、女子三十三名、付添先生六名)による本神輿昇上げ役、化粧して金冠を着けた宮司太刀持役である兵庫区笠松通の渡辺昇正君(和田岬小六年)、衣装を着装したお稚児さん八名も父兄共々に行列に加わり、その後に各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が発せし、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。

沿道見学の氏子の人達も、黄色い声を張り上げる女子中学生の参加した本神輿行列に元氣と希望をもらっ

たと感激し、かわいなお稚児さんの姿に微笑んでいた。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕の総代始め氏子三地区の人達又猿田彦会員達を含め総勢約五十名の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が齎行できた喜びで盛り上がりがあった。

平成三十年八月

氏子崇敬者親睦旅行

本年の氏子崇敬者親睦旅行は、岡山県津山市方面への日帰りバス旅行を実施した。

十日、宮司・禰宜を含め総代・氏子崇敬者二十七名(北部氏子会十一名・南部氏子会六名・東部氏子会六名・崇敬者二名)の参加のもと、先ず津山市一宮に鎮座し、美作国一之宮の中山神社に自由参拝して社前で記念写真を撮った。神社は慶雲四(七〇七)年の創建で、天照大神が天の岩戸に隠れた際、鏡を作った鏡作神(石凝姥神など)を祀っており、本殿は入母屋造妻入の他に例を見ない「中山造」と呼ばれる構造で国指定重要文化財であり、神門は津山城の四脚門が移築されたもので津山市

指定重要文化財である。

次にあじさい寺と称され、境内に多くのあじさいを咲かせている長法寺に向かった。参加者は、時節も良く咲き誇ったあじさいにカメラを向けて参詣していた。

津山国際ホテルで昼食をとった後、観光ボランティアの説明を聞きつつ津山城址(鶴山公園)天守跡を目指して登ったが、高齢者にはつらい城内の長い距離と梅雨の蒸し暑さで天守跡に至ったのはわずか八名程度であった。後、津山観光センターで買物などをし、近くの城東重要伝統的建造物群保存地区の城東町並みをガイドの説明を聞きつつ散策して全ての旅程を終え帰神した。



美作一之宮中山神社前での記念写真

進水式齋行

二十日、金川造船(株)で、福岡県杵田港の海運会社である福島海運(株)の曳船進水式が齋行された。祭壇に「命名書」「支綱切断用斧」も供えられた式場では、祝詞奏上・清め祓いの後、船主(公社)の辰元社長が「秀豊丸」と命名した後、船主・建造会社の代表者等が玉串拝礼して無事なる進水を祈願した。

神事に続き、社名旗や色とりどりのモール飾りを付けた曳船は、船主(公社)の福島会長の支綱切断により進水マーチの流れの中、五色の紙吹雪・紙テープ・白鳩・風船も舞い上がり、参列者の喜びの拍手の中無事に進水した。

曳船「秀豊丸」はこれより船内を含む艀装工事が進められ、平成三十



年九月十三日に引渡され、建造会社の人達の五色のテープとマーチに見送られ福岡へ向けて出港した。

平成三十年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行

十七・十八日の両日、相殿に祀る



神戸新聞の茅の輪くぐり神事写真記事

素盞鳴大神の夏越祭を齋行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十六名、奉納舞踊拝観者二名の十八名参列のもと、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲(かたみ節、取納奉行が神前奉納された。

「かたみ節」は、祝い歌で、「かたみ」とは物事をうまく固める、まともめる意で、貴方と私の愛情をかため

ましよう、七福神の神が全部揃い、いつまでも遊び楽しみ、笑顔を絶やさぬようと、扇子を両手に持つて踊る舞踊である。二曲目の「取納奉行」は、旧藩時代に島の役人達が、租税の額を決める王府の取納奉行が島にやって来たので、接待にかり出



神前奉納の琉球舞踊



三菱電機神戸構内緑地のちがや

される村の美女達の様子をリズムミカ  
ルで軽快に表現した女踊り舞踊であ  
る。この琉球舞踊神前奉納の後、参  
列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪く  
ぐり」神事では、宮司・禰宜に続き  
参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」  
と唱えつつ左・右・左と三度くぐり  
夏の無病息災を祈願した後、会館二  
階にて三菱電機神戸小谷総務課長の  
挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、  
和やかな雰囲気の中、参列者は神職  
手作りで無病息災のご利益ある「蘇  
民将来茅の輪守」を授与されお開き  
とした。

尚、本年の茅の輪守り、また境内  
の大茅の輪の「ちがや」草は、三菱

電機(株)神戸製作所のご配慮により、  
構内自生のちがやを用いさせていた  
だいた。三菱電機神戸のホームページ  
には「ちがや緑地管理によって、  
地元神社の伝統神事に貢献する取組  
を継続したい」と記載されているこ  
とに感謝申し上げます。

**平成三十年十月**

**工場現場詰所神棚新設  
修祓安全祈願祭齋行**

二十九日の大安日、三菱重工神  
戸造船所内でシールドマシンの組  
立・試運転また現地据付工事及びア  
フターサービス工事などの事業を行  
うJIMテクノロジ(株)神戸事業所  
(本社・神奈川県川崎市、神戸事業所・  
神戸市兵庫区笠松通)の製造部工場  
現場従業員詰め所で神棚新設入魂修  
祓安全祈願祭が斎行された。

神棚は過日神戸事業所で伊勢神宮  
に安全祈願参拝した際買い求め、此  
度工場現場の安全繁栄守護のため、  
神戸造船所内の現場詰め所に奉安し  
たもので、当日は事業所長をはじめ  
現場従業員全員が参列し、吉国製造  
部長の玉串奉奠に合わせ拝礼し、今  
後のシールドマシン製造工場の日々

の安全と繁栄を祈願した。齋主の  
「ご安全に！」に参列者全員唱和し  
て祭典を終了した。



新設神棚前での入魂修祓式

**社殿屋根葺き替え事業・銅板**

御寄進者ご芳名  
(含 申込・分納・追加)  
平成二十九年十一月から  
平成三十年十月末日まで  
順不同・敬称略

当社で命名に関係されたお子様の  
お健やかなご成長をご祈念申し  
上げます。

**新生児命名**

平成二十九年十一月から  
平成三十年十月末日まで

**趣意とお願い**

現社殿は昭和三十八年に竣工し  
て、五十五年となります。

銅板の寿命は約五、六十年といわ  
れています。そこで将来銅板屋根  
の葺き替えを行なわなければなら  
ません。

そのような事情により、皆々様  
に銅板寄進(一枚二千円)をお願  
いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお  
名前を残し、更なる三石大神のご  
加護により、貴社・貴家の益々の  
弥栄をご祈念申し上げます。ご案  
内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々  
には重ねてのご案内となりました  
ことをご了承下さい。



境内の奉賛芳名掲示板

シリーズ

社務所・境内紹介

手水社横に昭和三(一九二八)年の「手水社奉納石碑」がある。

碑は高一、五m、幅二十八cmで、表面中央に「奉獻三石神社手水社」と記され、右に「昭和三年胞祭社」、左に「五月吉日神港助産婦會」、下段に「発起人林秀子、世話人山根み柁・濱田八重子、差添人吉田茂吉」と四名の名が刻まれている。

当社の御祭神が神功皇后で安産の靈験があるため、当時の助産婦会の崇敬もあり、ご神徳への報恩で手水社が奉納されたのであろう。しかし、手水社は先の大戦の神戸大空襲で焼失していつどのようなものであったのか知ることが出来ない。現在の手水社は、戦後建てた木造の手水社が老朽したため、平成五(一九九三)年の平成の御修造事業の一環として鉄骨造銅板葺きで建築したものである。

さて、石碑には神港助産婦会とあるところから、昭和初期にはこの神戸にも多くの助産婦さんがいて会も組織されていたのであろう(昭和

四年には神戸市産婆会が設立されている)。この和田岬にも昭和五十五(一九七五)年代中頃まで助産婦さんが実在していたが、今は個人助産婦(現在称・助産師)の看板は見かけない。



ところで、助産婦は古く年を取った婦人が経験のみで出産の介助をして子を取り上げたので、取り上げ婆さん(地方により名称は異なる)・産婆と呼ばれていたが、明治三十二年(二八九九)年の産婆規則制定により、資格試験・名簿登録・業務範囲などが規定され、はじめて全国レベルの産婆資格の統一が図られ、職業としての開業権も与えられた。戦後新たに制定された保健婦助産婦看護婦法(略して保助看法。昭和二十三(二八四八)年、GHQの政策)により、産婆から助産婦と名称も変更され免許制となり、正常分娩の介助

をはじめ新生児の保健指導などの業をする女性のこととされた。

さらに平成十四(二〇〇二)年の保健師助産師看護師法で助産婦は助産師に改められ、その資格取得は国家試験合格者とされ現在に至っている。

シリーズ

書籍に見る三石さん

『日本全国開運神社』

このお守りがすごい!』

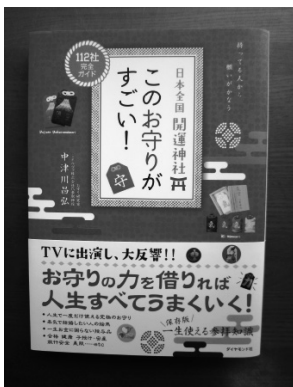
本書は(株)ダイヤモンド社から平成三十年三月に発刊されている(定価本体一、三八四円十税)。著者はTV番組にも出演してお守りや神社仏閣の魅力をも紹介している中津川昌弘氏である。

本書は、「はじめに」の条に、「人類は、神に祈り、願うことで、災厄を除け、発展してきたという歴史的事例がたくさんあり、祈りが病気の治療等に効果があることが、科学的に解明されてきました」と述べ、さらに太字で「お守りの力を信じてください。願いは、かないます」と、記されているように、全国の神社の

御利益のあるお守りの紹介、またその神社紹介、さらに神社参拜の方法や大祓(おまじない)のことなども記された神社豆辞典も兼ねている。

当社は「すごい珍しいお守り」の条の「珍しい由来」に、三石神社(兵庫県)の安産御守として、お守りの写真も付けられ「神功皇后懐妊の際、三つの石を身に付けて安産を祈願したという故事にちなむ、三つの石が入った安産御守。かつて袋の中の石が白二個なら男子、黒二個なら女子と占ったそうです」と簡単に紹介されている。

「あとがき」には、「私たちが生きている今は、はるかなる過去から無限に続く未来の真ん中『中今』である」という神道の概念があります。私



たちは神代からつながり、そして未来に影響しながら、つながり続けま

す。神社やお守りは、そのような縁をさらに強く結びつけてくださるのかなと思います」と述べている。

相当な神社通となった著者は、神社参拝してお守りを身に付けることにより、数年前に設立した会社は経済・社会状況の変化があっても何のトラブルもなく、また家庭も円満であると、お守りのご利益を説き、すべての人がお守りのご利益により幸福になっていただきたいと結んでいる。

**平成三十一年の神社神事・行事予定**

- 一月 一日 歳旦祭（初詣）
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭

フラメンコ舞踊奉納

藤井清美・野村美穂 両先生



フラメンコ

- 五月二十四日 例大祭
- 二十五日 地区子供みこし巡幸
- 二十六日 神幸式（おわたり）
- 六月十六日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月十七日 夏越祭

（琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）  
十八日（茅の輪くぐり）

九月二十三日 西宮神社産宮参り

十月 二十日 秋祭（天照皇大神祭）

各月一日 月次祭

十一月中 七五三詣

**三石神社諸祈祷のご案内**

**【殿内個人祈祷】**

（殿内における各種祈祷）  
家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

**【会社・事業所安全繁栄祈祷】**

（会社・事業所団体祈祷は事前ご予約願います）

**【出張祭典】**

（諸準備の為、事前ご予約願います）

起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他（含 神葬祭）

**ぶっき 服忌について**

家庭にご不幸があった場合、一般的には五十日間を忌中として故人を偲び、神棚に半紙を貼るなどしてお

まつりを遠慮します。

忌が明ければ神棚もおまつりし、通常の生活に戻ります。忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてから神社の参拝、また、お神札を受けでも差し支えありません。

なお、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でなければ、葬儀告別式後通常のおまつりをお尋ね下さい。詳略は当社

印刷所  
**(有) 前川企画印刷**  
神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一  
TEL (〇七八) 五七七二四八八  
FAX (〇七八) 五七七七三二〇